

# Job Style

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが。でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないかな。そんな挑戦を含んだ連載を新たに始めます。

## シリーズ はたらく若者



# My Happy



荒武 史織さん 28歳  
京都市北区役所地域力推進室

いまの仕事にたどり着くまでどんなことがありましたか

もともと転勤の多い家庭で、千葉県で幼少期から小学校5年生まで育ち、その後、青森県に引っ越し、中高を過ごしました。大学はまた関西だったので、京都の祖母の家から通いました。

就職先は兵庫だったため、兵庫に引っ越した両親の元から通いました。2年間IT系の営業として働き、塾のアルバイトをしつつも、無職期間の後公務員試験を受験しました。なので、現在の仕事に就いて2年半になります。

就職活動はどのようにされましたか。選んだ基準などはあれば。

学生時代は、将来について深く考えるきっかけもありません。就職活動に突入。理想をもってリクナビなどで求人を見ていましたが、12月まで内定がなかったため、ハローワークでも仕事を探し始めました。IT企業を選んだのは、女性の活躍もではじめたところで、なおかつ福利厚生なども良かったため働きやすそうと想って。でも何より焦りもありましたね。就活しはじめたころは、なんとなく受けている感じが、向(こう)採用担当者に伝わっていたと思います。それが、最後の選ぶポイントにならなかったんじゃないかな。12月のときはとにかく必死で、「なんでもするので拾ってください」という意味感

いが伝わったのかも。(笑)なんとか就職も決まりました。

はたらき始めてどうでしたか

周りに合わせて、迷惑をかけないようには思っていました。初任者としてプレッシャーなどはなく、育ててもらっていたと思いますが、「チーム」としてがんばる」という雰囲気は感じていて、そこに初任者だからはなかったかな。2年働いてみて、利益を求めたり、営業として人とのコミュニケーションを通して、多くのことを学ばせていただきました。

塾のアルバイトを選んだのは、教育にも興味があったからです。いろいろな子どもと接していて、自分の伝えたいことが子どもが成長していつかくれる達成感や責任感が魅力でした。この頃は、人のために何かをするということがとても楽しいと感じていました。

今の仕事を選んだきっかけは?

公務員浪人と言えはそうなのですが、必死に公務員を目指していたとは言いきれないかもしれないです。感じていました。勉強につかれて、富士山に登ってみたりもしました。(笑)

そのころ、がむしゃらに働くより、スマートに、バランスよく働くことができることに魅力を感じていました。それまでの私は、誰かに評価されたいと思っていたのですが、自分も

相手も大事にしようって考えに変わっていったのかも。そのため、自分らしく長く働ける職として、公務員を目指しました。

「書かなくていい」と思っていますか

これまでいろんな場所に住んできたので、ずっとそこにいられる仕事への憧れがあります。帰るところというイメージ。子どもながらにその地域に入っていくことをいいなと思っていましたが、反面大変なことも感じていました。子どものときに住んだ青森でも、地域のねぶたを羨ましいと思っていました。

京都はいろいろな地域の文化とかがあって、そこに日本人として関わりたいと思う気持ちがあります。転職では、お給料を気にする人も多くいると思います。もちろんあった方が良いとは思いますが、お金で仕事を選んではいかなかったなと思います。

いまはどんなお仕事をされているんですか。また、荒武さんの思う「はたらく観」ってどんなものですか

区役所の地域力推進室で働いています。いまの仕事の魅力は、技術だけじゃない「人と関わること」だと感じています。人のためとか、サポートすることが私の大切にしたいことですね。私にとって「はたらく観」は、自分がどう生きたかという生き様だと感じています。